

平成 27 年度第 2 回 日野市地域懇談会報告書

～地域が地域コミュニティの活性化を考える～



■ はじめに

地域には様々な課題が山積みで、複雑に絡み合っています。

それらの課題の解決は自治体だけではできません。

地域の人々のつながりを促進し、地域の課題を地域の人々が解決し、活力ある町の維持と発展を担うことが必要となってきました。

日野市では、以前から自治会長を対象に、「地域懇談会」を開催し、地域について語り合う場を設けてきましたが、平成26年度から開催を年2回に増やし、自治会長だけではなく、その地域で活動するさまざまな団体にも参加していただき、語り合う場としました。

平成26年度から「知る・考える・動き出す」の「三か年計画」を立て、たくさんの方々に参加していただいています。

平成27年度の地域懇談会は、「地域が地域コミュニティ活性化を考える!!」をテーマに第1回目地域課題と、地域に住む人々ができる課題解決のアイデアを話し合いました。

地域懇談会のあと、秋から冬にかけて、懇談会で出された課題とアイデアを市民有志と、地域サポーター有志をメンバーとした「アクションプラン検討会」で検討し、アクションプラン案を作りました。

今回、平成27年度第2回地域懇談会では、アクションプラン案を市民が市民にプレゼンテーションし内容を伝えることから始まりました。懇談の場面では、各テーブルにアクションプラン検討会のメンバーが入り、質問などにもそのメンバーが答えるなど、市民同士の懇談が活発になされている光景が印象的でした。

この懇談で頂いたアイデアをベースに、今後立ち上がる実行委員会で検討され、より良いプランにするために活用されます。

そして、いよいよ来年度からは、「地域が動き出す」ためのアクションプランが市民と市協働で動き始めます。

コミュニティを形作るそれぞれの団体がお互いを知り、尊重し、連携すれば多くの課題の解決の糸口がつかめるのではないのでしょうか。

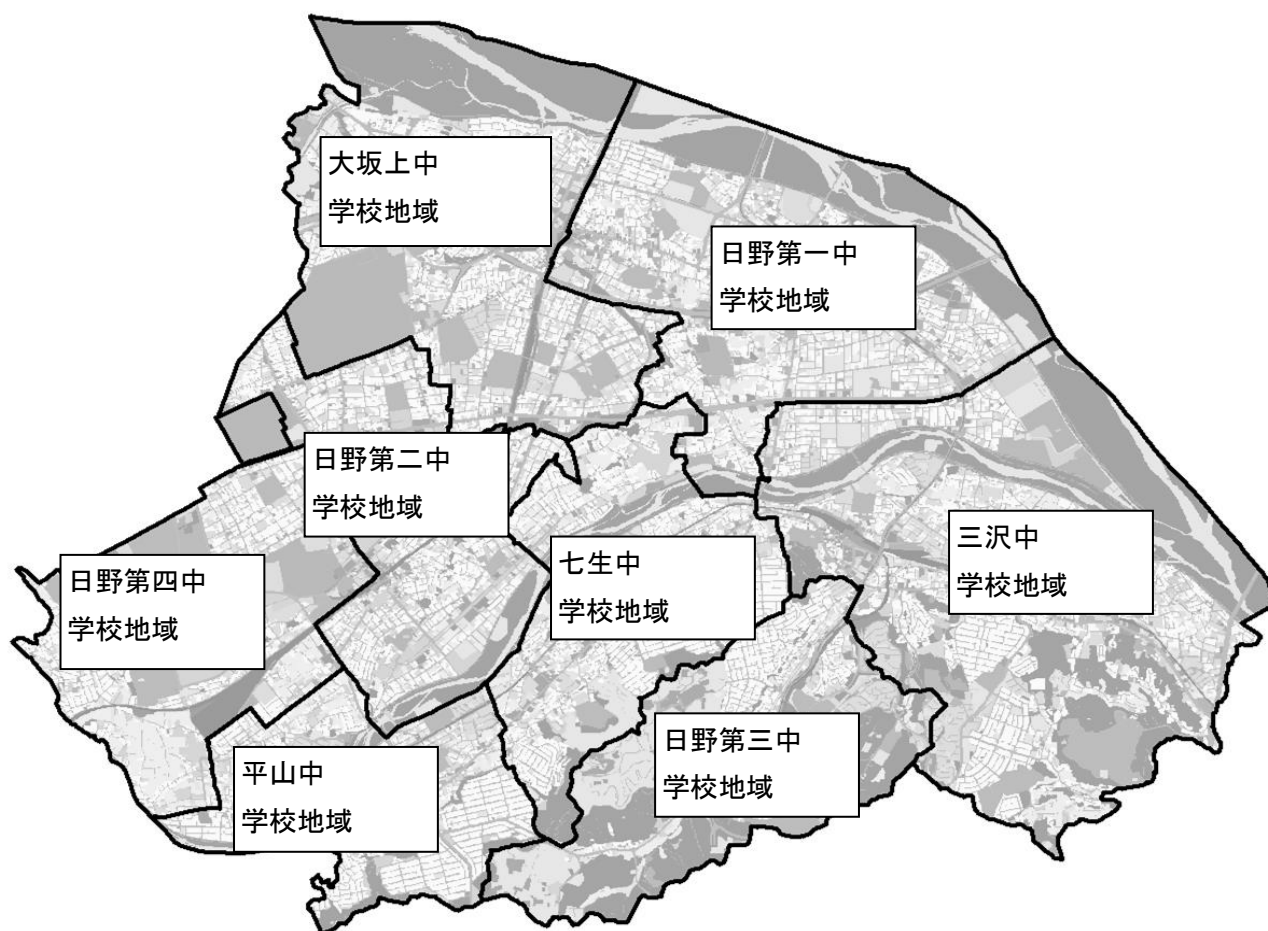
しかし、地域団体だけに課題解決をお願いするものではありません。

日野市内にあるすべての自治会（平成27年度：242自治会）には日野市職員の中から任命される地域サポーターが配置されています。

自治会を通して地域と関わり、地域が抱える課題を協働して解決していくことは、地域サポーターにとっては良い経験となるだけでなく、研修にもなっています。また、地域懇談会では若い地域サポーターが積極的に市民の方々と関わりを持ち、市民の方々から高い評価を得ています。

市民と市が一体となり、失敗を恐れず、地域の課題解決に向けて小さな一歩を踏み出していきましょう。

■ 市内各中学校区位置



■ 各中学校区の高齢化率、人口増加率、年少人口率、定住化率

	高齢化率	人口増減率	年少人口率	定住化率
	(65歳以上の人口/総人口)	(H21年からH25の増減率)	(15歳未満の人口/総人口)	(5年前の常住地が現住所であった世帯割合)
平均	22.30%	103.00%	13.20%	64.30%
一中	18.00%	106.00%	15.10%	61.40%
二中	25.80%	107.00%	12.20%	62.70%
七生中	23.60%	102.00%	12.00%	65.50%
三中	38.20%	97.00%	13.10%	67.20%
四中	17.80%	104.00%	15.60%	63.80%
三沢中	22.10%	102.00%	13.30%	63.40%
大坂上中	19.40%	105.00%	13.70%	63.90%
平山中	30.90%	99.00%	10.70%	70.20%

高齢化率、人口増減率、年少人口率は 平成 25 年 1 月住民基本台帳より
定住化率は、平成 22 年国勢調査より

■ 平成 27 年度 第 2 回地域懇談会概要

	日付	時間帯	学校区	場所	H27 第2回		アクションプラン
					団体数	人数	
①	1月31日 (日)	午前	大坂上中地区	新町交流センター	27	44	昔遊び会で防災を考えよう!
②		午後	四中地区	日野第四中学校	36	46	ラジオ体操で四中地区がつながる!!
③	2月6日 (土)	午前	平山中地区	平山小学校	27	42	拡張平山地域懇談会
④		午後	七生中地区	七生中	30	38	七生市民フェア
⑤	2月13日 (土)	午前	二中地区	多摩平交流センター	30	43	二中Buranning!
⑥		午後	一中地区	生活・保健センター	28	32	ラジオ体操後の地域イベント
⑦	2月20日 (土)	午前	三中地区	七生福祉センター	26	34	簡単防災訓練 (地域で防災の取組み)
⑧		午後	三沢中地区	三沢中	30	43	ちょこっと声かけたい!
				合計	234	322	

大坂上地区 アクションプラン

「昔遊び会で防災を考えよう！」

◎大坂上中学校区データ

世帯：12,471 世帯（平成25年1月現在） 高齢化率 19.4%
市内平均 22.3%

◎地域の課題

○防災・減災、つながりが希薄、高齢化が進んでいる

◎地域の魅力

○自然が多い（用水路、畑など）歴史資産が豊富（日野宮神社のうなぎ伝説など）

◎アクションプラン検討会

実施：9月29日～11月18日 全3回 8団体 18人参加

◎平成27年度第2回地域懇談会（新町交流センター）

実施日：平成28年1月31日(日) 参加：27団体 44名

■ なぜアクションプランを始めるのか？

大坂上中地区は、人口推移などは市内でも平均的な数字を維持していますが、市全体として今後高齢化は避けられない問題です。また、「四ッ谷のうなぎ伝説」が残っているように、大坂上中地区の多摩川に近い地域は、洪水などの災害が想定される地域でもあります。

【地域懇談会で出た地域課題】	【地域課題解決のアイデア】
若い世代齢化 新しい人々が自治会に入って来ない	子ども行事を開催し、若い人を呼び込む（関心を持ってもらう） 実践女子大学と自治会で何かやる
新旧住民の交流不足	気軽に集まれる場を作る
高齢者が多い（どこに住んでいるのか把握できない）	高齢者への声掛けなどハードルの低い取組
防災に対する意識が低い	楽しみながら学べる防災訓練を行う。

これらの根本的な問題解決のためには「人とのつながり」が必要ではないかという話になりました。



■ アクションプランの内容

大坂上中地区のアクションプランは「昔遊び会で防災を考えよう!」です。

◎ポイント◎

★三世代交流

⇒高齢者、子ども、子育て世代の交流を生む。(子どもが来れば親もくる)

高齢者のパワーを若い世代(子育て世代等)に知ってもらい、相乗効果を生み出す!

★つながりのきっかけづくり

⇒日頃からの「つながり」があればいざという時も助け合える!

★防災・減災意識の啓蒙

⇒まずは地域の防災ニーズを把握する。防災・減災に関心を持ってもらう。

★ノウハウの共有(防災、昔遊び等)

⇒防災・災害時に必要なノウハウを教え合う。地域の伝統を後世に伝える。

■ 地域懇談会での話し合い

地域懇談会では、①「人を呼ぶための工夫」(多くの世代に来てもらうためにはどうしたらいいか) ②「防災について思うところ」(防災や減災に興味のない人に興味を持ってもらうためにはどうしたらいいか)を話し合いました。

<出た意見>

- ・子どもを主体にしたイベントだと参加率が高い
- ・防災「訓練」でなくゲーム形式で「競い合う」
- ・子どもが炊き出しをし、大人に振る舞う。
- ・参加者もスタッフも「楽しむ」ことが大切!



■ 期待する効果

「昔遊び会で防災を考えよう!」は、普段あまり関わりのない人同士の繋がるきっかけをつくることを目的の一つとしています。イベントをきっかけに、ご近所で気軽に挨拶を交わせる関係を築くこと。それが延いては「いざという時に助け合える関係」への第一歩になるのだと考えます。

また、「イザ!カエルキャラバン[※]」を取り入れること、イベント時に地域の防災に対するニーズを把握することにより、地域で防災に取り組める下地を作ります。

※「イザ!カエルキャラバン」…遊びながら減災・防災を学べるパッケージプログラム

■ 今後の課題

課題は「いかに多くの人に参加してもらえるか」です。地域の様々な団体、様々な世代に参加してもらうことが、「つながり」づくりと「防災に取り組める下地」づくりに繋がるためです。

四中地区 アクションプラン

「ラジオ体操で四中地区がつながる!!」

◎四中学校区データ

世帯：24,279 世帯（平成25年1月現在） 高齢化率 17.8%
市内平均 22.3%

◎地域の課題

- 集合住宅と戸建住宅の人々のつながりが希薄化
- 若い世代・新しい人々が自治会に入っていない

◎地域の魅力

- 旭が丘中央公園、四中地区は年少人口率が市内トップ、

◎アクションプラン検討会

実施：平成27年10月6日～同年11月19日 全3回 14団体20人参加

◎平成27年度第2回地域懇談会（日野第四中学校）

実施日：平成28年1月31日(日) 参加：36団体 46名

■ なぜアクションプランを始めるのか？

アクションプラン検討会では、平成26年度地域懇談会と平成27年度第一回地域懇談会の内容を振り返り、次の点に注目しました。

- ①「地域の特徴」＝旭が丘中央公園、四中地区は年少人口率が市内トップ、集合住宅の率が市内2番目
- ②「地域の課題」＝集合住宅と戸建住宅の人々のつながりが希薄化している若い世代・新しい人々が自治会に入っていない
- ③「アクション」＝地域のつながりを作る楽しいイベント、楽しい反省会

これらの点を踏まえ、四中地区の地域課題を解決するためのアクションプランを検討していくにあたり、「若い世代と高齢者世代、昔からの住民と新しく来た住民とが、楽しく気軽につながりきっかけを作る！」という目標を立てました。

■ アクションプランの内容

四中地区のアクションプランは「ラジオ体操で四中地区がつながる!!」です。

内容は、夏休みの子どものラジオ体操を四中地区全体で取り組むというものです。夏休み中に各所でラジオ体操を行い、1日だけ参加者全員で旭が丘中央公園に集まり、地域のみんなでラジオ体操を行います。



このアクションプランにした理由は次の4つです。

- ①四中地域は核家族が多い割合を占める中、普段顔を合わせる機会が少ない子育て世代と高齢者世代とが、子どものラジオ体操をきっかけに顔見知りの関係になることができる。
- ②みんな知っているラジオ体操を行うことで、新しく来た住民も気軽に参加することができる。声かけもしやすい。
- ③子どもにとっては2学期に向けての生活習慣づくりになる。大人にとっては健康づくりになる。
- ④夏休みの子どものラジオ体操は、共働きの親も多い中で運営が負担になっている。また、騒音の関係もあり地域の理解が必要になっている。

■ 地域懇談会での話し合い



平成28年1月31日にあった地域懇談会では、このアクションプランを四中地区全体で取組めるものにするためのアイデア、①周知方法、②地域の人々が集まる仕掛け、について意見を出し合いました。

①周知方法で挙げた主な意見は、市内の学校や子ども会と連携してPR活動をする、企業と連携して広報活動を行うなど、つながりが広がるアイデアが挙がりました。

②地域の人々が集まる仕掛けとして、最後1日全員で集まる日に体操後にイベントを行い付加価値をつける、そのイベントは朝ごはんを食べれるとよい、食べ物は防災も絡めてアルファ米などはどうか、小中学生も一緒に実行委員会で考える、参加者をカウントして記録をみんなで作る、高齢者から障害者、小さな子どもまで広く集まれるようにするなど、楽しくみんなで垣根なく集まれるアイデアが上がりました。

■ 期待する効果

四中地区にあるいくつかの公園でラジオ体操をきっかけに、新しい小さな交流が生まれるでしょう。この小さなつながりが波状的に四中地区全体に広がっていくことで、地域の連帯感が強まり、安心して住みやすいまちになっていくのではないのでしょうか。

■ 今後の課題

四中地区は、子どもの人口が市内No.1で高齢化率は市内で一番低い割合です。しかし、三世帯世帯の数は市内で2番目に少なく、10年後20年後には四中地区も高齢単身世帯が増加していくでしょう。その時に活気がない地域にならないよう、今のうちから高齢化に備え、新しく若い人たちが地域に参加しやすい住みよい地域になることを目標にして、若い世代と高齢者世代、昔からの住民と新しく来た住民とが楽しく気軽につながれる関係づくりを、このアクションプランをきっかけに作っていきたいと思います。

平山中地区 アクションプラン

「(仮題)拡張平山地域懇談会」を開き交流を深める

◎平山中中学校区データ

世帯：6,698 世帯（平成25年1月現在） 高齢化率 30.9%
市内平均 22.3%

◎地域の課題

○空き家対策、防災・減災、つながりが希薄

◎地域の魅力

○歴史に関連した資源がある、用水の魚や、カワセミなどの生き物が多い、景色の良い場所がたくさんある

◎アクションプラン検討会

実施：9月28日～12月21日 全5回 13団体 19人参加

◎平成27年度第2回地域懇談会(平山小学校)

実施日：平成28年2月6日(土) 参加：27団体 42名

■ なぜアクションプランを始めるのか？

平山中地区の地域の特徴は、丘陵地や浅川があり、自然が豊富であると言えます。一方で高齢化率は市内で2番目に高く、逆に年少人口率は一番低くなっています。人口も市内平均はまだ上がっていますが、この地区では減少が始まっています。

これらのデータを受け、地域懇談会で、地域の課題としてあがった主なものは、「空き家対策」、「防災・減災」、「つながりが希薄」、で、課題解決のアイデアとしては、「空き家をサロンやシェアハウスとして使う」、

「地域の声を聞くような懇談会を増やす」、「高齢者の手助け(災害時の避難)」などでした。

これらの課題を解決するには行政の力だけではできません。市民と行政が協力して課題に立ち向かうことが必要となってきています。



■ アクションプランの内容

平山中地区では、課題が山積みで複雑に絡み合っています。

しかし、どんな活動も基本は人の結びつきから。まずは組織の交流から始めてみようということで意見が一致し、「(仮題)拡張平山地域懇談会」を開き、交流を深めることになり

ました。

◎ポイント

①緩やかなつながり

：強制ではない。無理強いはしない。

②会の参加は自由

：テーマによって参加しないというのもあり。参加できるときにだけ参加でよい。

③人を知る

：交流の基本は人を知ることから。まずは話してその人を知ろう。

④互いに協力できるものは協力する

：話しているだけでは発展しない。良いアイデアがあれば一緒に動いてみよう。



■ 地域懇談会での話し合い

地域懇談会では、①「仮題拡張平山地域懇談会」の名称を考えると、②「楽しい会にするにはどうすれば良いか、どうすれば参加したくなるか」のアイデアを出し合いました。

①には、「スクラム平山」「ひらやま会」「平山バンザイ会」「来なくても良いの会？」

など、②には、「最後にゲームをする」「お酒を出す」「イベントに合わせて行う」「お茶とお菓子を出す」などのアイデアが出されました。

今回の懇談会には、平山小学校の児童 7 名も参加し、子どもならではの斬新なアイデアを考えてくれました。

■ 期待する効果

「(仮題)拡張平山地域懇談会」は地域活動の情報交換・協議の場であり、組織・団体の交流や、結びつきを強めることを目的としています。

この懇談会の中で、「高齢化問題」や、「災害・減災対策」、「空き家問題」に話が広がり、地域の課題解決につながれば良いと思います。これが「拡張」の意味です。

しかし、そんなに簡単にはいかないとも思っています。それでも交流が広がり、結びつきが強くなることが出来れば、それで大成功だと思います。

■ 今後の課題

課題は「継続」です。この「(仮題)拡張平山地域懇談会」がゆるやかに続き、多くの人に参加してもらうことができれば、少しずつ課題の解決につながっていくと思います。

いろいろな団体のいろいろな人が、入れ代わり立ち代わり参加してもらえたら、ずっと続いていくことができるでしょう。

七生中地区 アクションプラン

七生中地区内の各地域団体が PR し、団体同士をつなげる場を創る！
「七生市民フェア（仮称）」

◎七生中学校区データ

世帯：8,659 世帯（平成25年1月現在） 高齢化率 23.6%
市内平均 22.3%

◎地域の課題

- 1 犯罪件数が他地域に比べて高い。（空き家が多いのも一つの原因では）
- 2 自治会加入率が低い。
- 3 高齢者（特に男性）の引きこもりが多い。

◎地域の特徴

- 1 分譲住宅が多いため、人口の流入が少ない。
- 2 丘陵地・川沿いで地域性が異なる。

◎アクションプラン検討会

実施：10月5日～1月13日 全4回 16団体 23人参加

◎平成27年度第2回地域懇談会(七生中学校)

実施日：平成28年2月6日(日) 参加：30団体 38名

■ なぜアクションプランを始めるのか？

平成26年度地域懇談会で挙げた七生中地区の地域の特徴は、①【自然】用水・湧水・かわせみ・浅川等自然が豊富であること ②【市民の憩いの場】南平駅前ポケット広場・南平丘陵公園等市民の憩いの場があること ③【まちの趣】坂道・丘陵地からの夜景・一番橋など趣のある風景があること の3点が挙げられました。また、市内で最も共同住宅の割合が低く、戸建住宅の割合が高い地域になります。

これらのデータを参考にしながら、平成27年度の地域懇談会で話し合った結果、地域の課題として、①犯罪件数が他地域に比べて高い。（空き家が多いのも一つの原因では）、②自治会加入率が低い、③高齢者（特に男性）の引きこもりが多い、これら3つが挙げられました。

これらの課題を解決するには行政の力だけではできません。市民と行政が協力して課題に立ち向かうことが必要となってきています。

■ アクションプランの内容

アクションプラン検討会では、上記3つの課題の解決策として、「地域に関心を持つ仲間を増やし、いざという時に一致団結でき、日頃安心して暮らせる地域をつくること」としました。この解決策に寄与するため、次の2つの目標を掲げました。①七生中地区内の地域団体同士がつながるきっかけを創ること ②地域に関心はあっても機会のなかった人と

地域団体がつながるきっかけを創ること です。

①②を達成するための具体的アクションプランとして、以下のポイントを踏まえ、「七生市民フェア」をアクションプランとして提案しました。七生市民フェアは、七生中地区内の地域団体が出店やブースを出し、お祭りを通して日ごろの活動紹介をするものです。

◎ポイント

- ①地域課題・特徴を踏まえる
- ②三世交代流
- ③情報発信・共有・交換
- ④インパクト（求心力）



■ 地域懇談会での話し合い

地域懇談会では、グループに分かれ、①【仕掛け（インパクト）】どうしたら人が集まるか②【周知方法】どうしたら多くの人に知ってもらえるか ③【予算】補助金に頼らずにお金を集める方法はあるかのアイデア出しを行いました。

①の仕掛け（インパクト）として、七生中地区の食材を活かした B 級グルメ大会・子ども美容室などの模擬店・盆踊りとダンスの融合「盆ダンス」祭・地区内の学校の吹奏楽部等の演奏会・自治会対抗イベント「わが自治会のレジェンド」・フリーマーケット・ギネス記録チャレンジ等、様々な求心力のある企画が提案されました。



②の周知方法としては、HP・SNS・ケーブルテレビの活用・自治会回覧版・各小中学校でのチラシ配布・ポスターを小中学校の生徒に描いてもらう・防災無線や宣伝カーを使って開催をPRなどのアイデアが出されました。

③の予算としては、自分たちで作成したものを販売する・出店希望者から参加料を集める・協賛金（寄付金）を募る・広告代を集める・スポンサーを募るなどのアイデアが出されました。

■ 期待する効果

アクションプランによって、「地域団体と地域団体」「地域団体とこれまで地域活動をしていなかった人」がつながり、七生中地区内の顔が見える関係が進み、「地域に関心を持つ仲間を増やし、いざという時に一致団結でき、日頃安心して暮らせる地域」が実現されると期待されます。

それによって、課題として挙がっていた犯罪率の改善や、防災意識の向上、地域で子育てをしようという意識の向上等、様々な可能性が広がります。また、何よりここに住んでいることが安心、楽しいと思える住民が増えると考えます。

■ 今後の課題

課題は「継続性」です。一度きりのイベントということではなく、形を変えながら、義務感がなく、ゆるやかに、楽しく続けていくことが必要です。

二中地区 アクションプラン

ぶらぶらまちを歩きながら地域の魅力を活かす方法をプランする！
「二中 Buranning！」

◎二中学校区データ

世帯：9,874 世帯（平成25年1月現在） 高齢化率 25.8%
市内平均 22.3%

◎地域の課題

- 1 新住民・旧住民の交流の場が少ない（マンションと戸建の交流少ない）
- 2 自治会の情報が伝わらない（加入率低）
- 3 高齢者が若い世代と交流する場が少ない
- 4 商店の活性化

◎地域の特徴

- 1 人口増加率が市内で最も高い
- 2 同じ二中地区内で豊田駅を境に地域性が異なっていること

◎アクションプラン検討会

実施：10月8日～1月20日 全6回 16団体 20人参加

◎平成27年度第2回地域懇談会(多摩平交流センター)

実施日：平成28年2月13日(土) 参加：30団体 43名

■ なぜアクションプランを始めるのか？

平成26年度地域懇談会で挙げた二中地区の地域の特徴は、①【人】地域活動が活発であること ②【自然】黒川清流公園や用水など駅前でありながら自然が豊富であること ③【商店・商業施設】駅前商店街・イオンモールがあること の3点が挙げられました。また、人口増加率は市内で最も高く、新しい住民が増えている地域と言えます。

これらのデータを参考にしながら、平成27年度の地域懇談会で話し合った結果、地域の課題として①新住民・旧住民の交流の場が少ない（マンションと戸建の交流少ない）、②自治会の情報が伝わらない（加入率低）、③高齢者が若い世代と交流する場が少ない、④商店の活性化、これら4つが挙げられました。

これらの課題を解決するには行政の力だけではできません。市民と行政が協力して課題に立ち向かうことが必要となってきています。

■ アクションプランの内容

アクションプラン検討会では、上記4つの課題の共通課題として、「人と人のつながりが薄いこと」であるとし、なぜ人と人とのつながりが薄いのか、その要因として以下の項目が挙げられました。

- ①地形（台地・川沿いによって、人が住みだした歴史が違う。線路等により地域間の移動がスムーズにできない。）
- ②社会的要因（核家族化・働き方）
- ③地域に関心を持っている人が少ない（関心がないと情報は届かない）

本アクションプランで、①②の要因をすぐに解決することは難しいが、③「地域に関心を持っている人が少ない」ということは、少しでも解決に近づけるのではないかと、③に着目し、「地域に関心を持つ人を増やすこと」を解決策としました。そのために、以下のポイントを踏まえ、地域の良いところを知ってもらうまち歩きを行い、それと同時にその資源を活かしていくプランを考える「二中地区 Buranning!」をアクションプランとして提案しました。

◎ポイント

- ①地域課題・特徴を踏まえる
- ②継続性
- ③地域課題を解決するという目的を共有
- ④地域の愛着の醸成



■ 地域懇談会での話し合い



地域懇談会では、地域ごとに分かれ、地図のワークシートを広げ、①わたしの紹介したいおすすめスポット！②どうしたら参加してもらえるかの仕掛けについて、アイデアを出し合いました。

①のおすすめスポットとして、黒川清流公園・コニカミノルタ前の桜並木・多摩平緑地・等自然を中心とした景観、トムの家・パン屋激战区・味のある店主直筆メニューがあるうどん屋「さくら」・日野台おにぎりが食べられるお米屋さん「内田商店」・メンチカツがおいしい「遠藤精肉店」など、商店が多く挙げられました。②の参加してもらえる仕掛けとして、「探検

隊シリーズ」として、ターゲットを分けてパターンごとのまち歩きコースを作成する、女子大生をターゲットとしたまち歩きをする、ツアーガイドの養成をする、チケット制食い倒れツアー、昔こんな店あったよツアー、転入者ウェルカムツアーなどのアイデアが出されました。

■ 期待する効果

期待する効果として、以下の3点を挙げています。

- ① 地域のことを知らなかった人が、自分の地域で新しい発見ができる。
- ② 同じ二中地区内でも北側の人が知らない南側を知り、南側の人が北側を知ることができる。
- ③ 顔見知りが増え、仲間が増える。

二中地区は、人口増加率は市内で最も高く、新しい住民が増えている地域です。その分開拓の余地があります。地域に関心をもつ人が増え、地域活動の仲間が増え、一つのコミュニティとしてつながりができていく、正の循環が創出されることが期待されます。

■ 今後の課題

課題はポイントでも挙げている「継続性」と「いかにこれまで地域活動をしていなかった人を巻き込めるか」です。それには、義務感なく、自然に、ゆるやかに進めていくことが必要です。

一中地区 アクションプラン

ラジオ体操をきっかけにして交流する！「仲田の森で夏祭り！」

◎一中学校区データ

世帯：11,546 世帯（平成25年1月現在） 高齢化率 18.0%
市内平均 22.3%

◎地域の課題

○コミュニティの低下・子育ての不安・防災への不安

◎地域の魅力

○仲田の森蚕糸公園・用水路・多摩川

◎アクションプラン検討会

実施：10月6日～11月25日 全3回 7団体 10人参加

◎平成27年度第2回地域懇談会(生活・保健センター)

実施日：平成28年2月13日(土) 参加：28団体 32名

■ なぜアクションプランを始めるのか？

一中地区の地域の特徴は、仲田の森蚕糸公園や多摩川が近くにあり、自然が地域の魅力となっています。人口増加率及び年少人口率は共に市内で二番目であり、若い世代が入ってきている地域と言えます。

これらのデータを参考にしながら、地域懇談会で話し合った結果、地域の課題として①高齢化、②自治会加入率の低下、③新しく入ってきた人との交流が少ない、④コミュニティの低下、これら4つが取り上げられました。

これらの課題を解決するには行政の力だけではできません。市民と行政が協力して課題に立ち向かうことが必要となってきています。

■ アクションプランの内容

他の地区と同様に、一中地区でも課題が山積みで複雑に絡み合っています。

しかし、自治会加入率の低下、災害時にまず助け合えるのは近所だという検討会での話により、交流が必要だということで意見が一致し、①子ども②イベント③多くの人が集まれる④健康、これらをキーワードに交流を深めることになりました。

◎ポイント

- ①主体は市民：地域の人たちが交流するきっかけづくり。
- ②多くの人が関われる：子どもを中心にした多世代交流。
- ③地域の課題をふまえる：健康は多くの世代の関心ごと。
- ④気軽に：ラジオ体操は子どもから高齢者まで多くの世代と一緒にできる体操。
- ⑤楽しく：ラジオ体操後の交流で、顔の見える関係を作ろう！

■ 地域懇談会での話し合い

地域懇談会では、①地域の人が集まる仕掛け（どんなイベントならば人が集まるか？・どんな団体や人に声をかければ良いか？）②どのように声かけをするか？（子ども・子育て世代・高齢者をターゲットに）のアイデアを出し合いました。

①には、「食べる」でバーベキュー・流しそうめん・ほうとう作り・朝ビールなど、「遊ぶ」でビンゴ・カラオケ・マーじゃん・虫とり・ベーゴマ大会など、「学ぶ」で地域のことを学ぶ・地域を知るためのまち歩き・脳トレ・展示・発表などが出ました。

②には、子ども・ママ友ネットワーク・老人会・市民グループへの声かけと、挨拶・回覧版・フェイスブック・広報・ホームページ・チラシ・ポスターを使った周知などのアイデアが出されました。

■ 期待する効果

このアクションプランは、まずは地域の方々が顔を合わせる場を作ってみよう、交流してみようという思いから作り上げてきたものです。顔を合わせるにより自治会やNPOなどの組織・団体の交流や、結びつきを強めることを目的としています。

一中地区は、人口が約2万5千人と市内中学校区の中でも第3位であり、比較的人口が多い地域です。その広い地区の中で、何人かの人々が顔を合わせたところですぐには地域の課題解決につながらないかもしれませんが、しかし、子ども・高齢者に対する見守りや、防犯・防災、災害時の助け合いなど、人と人とのつながりが生み出す効果には計り知れないものがあります。

しかし、防犯・防災やこれから来るかもしれない災害のためにつながるのでは楽しくない。楽しくなければ続かない。自然に顔を合わせ、交流し、少しでもつながることができれば、それで大成功だと思います。

■ 今後の課題

課題は「継続」です。一度きりのイベントということではなく、形を変えながらもこのアクションプランが自然に、ゆるやかに続き、交流が広がっていくことにより少しずつ課題の解決につながっていくと思います。



三中地区 アクションプラン

「簡単防災訓練(イザ!カエルキャラバン!)を行い地域のつながりを深める」

◎三中学校区データ

世帯：4,936 世帯（平成25年1月現在） 高齢化率 38.2%
市内平均 22.3%

◎地域の課題

○防災・減災、つながりが希薄、高齢化が進んでいる

◎地域の魅力

○程久保川がきれいになった、自然が豊富

◎アクションプラン検討会

実施：10月1日～11月16日 全3回 12団体 18人参加

◎平成27年度第2回地域懇談会(七生福祉センター)

実施日：平成28年2月20日(土) 参加：26団体 34名

■ なぜアクションプランを始めるのか？

三中地区は、高齢化率が市内で一番高く、また、人口増加率は市内平均は上昇していますが、三中地区は97%と減少が始まっています。また、地形的には、付近に程久保川、浅川があり、丘陵地もあります。

急斜面もあることから、災害面に不安を抱える方々も多くいます。

地域懇談会で地域の課題としてあがったものは、やはり「防災・減災」や「高齢化が進んでいる」というものでした。また、「つながりが希薄」というものもありました。

これらの課題を解決するアイデアであがったものは、「防災をテーマにつながる」、「世代間交流(イベント)を行う」などでした。

これらを考慮し、地域で課題を解決していくためにまず手をつけるのは、「簡単防災訓練(カエルキャラバン!)を行い地域のつながりを深める」となりました。この訓練が地域交流のきっかけになることを期待しています。



■ アクションプランの内容

三中地区のアクションプラン、「簡単防災訓練(カエルキャラバン!)を行い地域のつながりを深める」のポイントは、以下のとおりです。

①防災について知ろう

: 地域の特性から防災を考える。

②みんなが顔見知りになる

: 防災訓練をしたあとは、楽しい懇親会で打ち解けあう。

③やってみて考える

: まず動いてみる。そして次に向けてみんなで考えてみる。
これが三中地区のポイントです。



■ 地域懇談会での話し合い

地域懇談会では、①「どうしたら多くの団体に簡単防災訓練を実施してもらえるか」と、②「多くの方に参加してもらおうアイデア」を出し合いました。

①には、「他のイベントと同時に行う」、「他団体との共催」、「平日の夜に実施する」など、②には、「子どもに参加してもらおう」、「景品を出す」、「集まりやすい日時、場所で行う」などがアイデアとして出されました。

■ 期待する効果

地域の課題がこのアクションプランですべて解消するわけではありませんが、課題解決のきっかけになれば良いと思います。

三中地区のアクションプランは、防災訓練を行うことで地域のつながりを深めることを目的としています。

小さな力でも、継続的に行うことが、課題解決につながるのではないのでしょうか。

■ 今後の課題

課題は継続することと、実施してくれる団体を増やしていくことです。長く続けられれば、地域のつながりはおのずと深まっていきます。しかし、実施してくれる団体がなければ、続けることもできません。

今後の実行委員会では、地域懇談会でいただいたアイデアを参考に、より多くの人に関われるよう、そして継続していけるよう検討をしながら実施していきたいと思います。

三沢中地区 アクションプラン

「ちょこっと声かけたい！」

◎三沢中学校区データ

世帯：17,165世帯（平成25年1月現在） 高齢化率 22.1%
市内平均 22.3%

※世帯状況別の人口状況は、戸建住宅の世帯が少なく、共同住宅世帯の割合が市内でも一番大きい。また、高齢単身世帯数は市内で一番多い地域。

◎地域の課題

○コミュニティの低下 ○高齢者の健康寿命を伸ばす ○災害時の相互の助け合い

◎地域の魅力

○豊かな自然 ○歴史・文化財が多い ○様々な都市農業が盛ん

◎平成27年度第2回地域懇談会(三沢中学校)

実施日：平成28年2月20日(土) 参加：30団体 43名

◎アクションプラン検討会

実施：9月～11月 全3回 10人参加

・市民・地域包括支援センター・子育てカフェ・日野市社会福祉協議会等

■ なぜアクションプランを始めるのか？

地域の課題を受けて、地域の皆さんがどのように課題に取り組むか、そのアクションプランを検討する会がたちあげられました。アクションプラン検討会では、地域特性を踏まえ、楽しく、みんなに関われるプランについて話し合いました。

I 三沢中地区のアクションプラン「ちょこっと声かけたい！」

これらの地域課題をこれらを解消していくために、地域に必要なものは何かを検討会では考えました。その答えは、「顔の見える関係」を創り上げることです。

では、コミュニケーションの希薄化も課題に挙がるこの地域で、どうしたら「顔の見える関係」を創り上げることが出来るかを検討会では話し合いました。

そして、様々な世代の方が「顔の見える関係」を必要としているなら、こちらから迎えに行っていけばどうだろうと考えました。

そこで、三沢中地区の豊富な社会的資源を利用して、様々なイベントを定期的に「ちょっと気になる人たち・きっかけが欲しい人たち」に紹介し、地域に出るきっかけ作りを行いたいと考えました。

II 期待する効果

三沢中地区を、気がねしないで声をかけあえる地域にしていくことです。

III 先行事例

(1) 日野市高齢福祉課 「気かけ運動」＝市民の方に参加を呼びかけています。

(2) 「根石^{ねいし}声かけ隊」

平成 15 年に愛知県岡崎市の根石学区の PTA が中心となって発足した子供たちの安全を目指した市民ボランティア組織です。無理なく、楽しく散歩感覚で実施。現在は、退職後の高齢者の方を中心に 400 人の参加者がいて、それぞれに身分証が発行されている。

■ 効果

- ・地域の犯罪件数が減少。
- ・子どもたちに防犯意識が芽生え、参加者の生きがいともなっている。
- ・課題は、参加者の自主性を重んじるため、人手不足が生じている地域がある。

IV 実行委員会で考えていくこと

(1) 自分たちの行う活動イベントの中で、声かけができるものを検討。

例) 防災イベント、納涼まつり、どんと焼き 等

(2) どんな人たちに声かけしていくか

ちょっと気になる人や、きっかけがない人には、どんな人がいるかを検討。

例) 母子家庭の親子、日野市に来たばかりで、地域に知り合いのいない方 等

(3) どんな方法で声かけするか

声かけする方も、される方も安心して行うには、どのような方法があるかを検討。

例) 地域の方全てに係わる防災活動の中で声かけ。

「ちょこっと声かけ週間」をつくる。

